

わが家の防災対策

防災・安全

もしもの時に備えて！

もしもの時に備えて、
家族で事前に確認
しておきましょう

地震発生時の行動マニュアル

地震発生！そのときどうする？

大きな地震が発生したら、冷静に対応するのは難しいものです。しかし、一瞬の判断が生死を分けることもあります。地震が起きて「あわてず、落ち着いて」行動するために、以下の行動パターンを覚えておきましょう。



地震発生時の行動マニュアル

地震発生

- * 落ち着いて、自分の身を守る。机の下などへもぐる。倒れてくる家具や落下物に注意をする。
- * ドアや窓を開けて、逃げ道を確保する。

1~2分

- * 火元を確認、出火していたら初期消火
- * 家族の安全を確保
- * 靴をはく。(ガラスの破片などから足を守る。)
- * 非常持ち出し品を手近に用意する。



3分

- * 隣近所の安全を確認
特に、一人暮らしの高齢者など避難行動要支援者がいる世帯には積極的に声をかけ、安否を確認する。火が出ていたら大声で知らせ、協力して消火する。
- * 余震に注意 (大きな地震の後には余震が発生する。)

5分

- * ラジオなどで情報を確認
- * 間違った情報にまどわされないように。
- * 電話はなるべく使わない。
- * 家屋倒壊などの恐れがあれば避難する。ブロック塀やガラスに注意。車は使用しないこと。



5~10分

- * 子どもを迎えに行く。
保育所・子ども園や小・中学校に子どもを迎えに行く。
自宅を離れる時には、行き先を書いたメモを目立つ場所に残す。
- * 出火防止をする。
- * ガスの元栓を閉め、電気ブレーカーを落とす。

****持ち出し品**** (事前に準備しましょう)

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 軍手 | <input type="checkbox"/> 避難者カード |
| <input type="checkbox"/> 下着 | <input type="checkbox"/> スリッパ |
| <input type="checkbox"/> タオル | <input type="checkbox"/> 笛 |
| <input type="checkbox"/> 雨具 | <input type="checkbox"/> ロープ |
| <input type="checkbox"/> 非常持ち出し袋 リュックサック | <input type="checkbox"/> 底の厚い丈夫な靴 |
| <input type="checkbox"/> ヘルメット | <input type="checkbox"/> 現金・貴重品 パスポート |
| <input type="checkbox"/> 消毒液 | <input type="checkbox"/> 携帯ラジオ |
| <input type="checkbox"/> 懐中電灯・予備電池・ローソク・マッチ | |
| <input type="checkbox"/> 子どもに必要なもの | |
| <input type="checkbox"/> 救急箱や個人に必要な薬 | |
| <input type="checkbox"/> 市販の飲用水 (3日分) | |
| <input type="checkbox"/> 火や水がいない食糧 (3日分) | |
| <input type="checkbox"/> マスク | |
| <input type="checkbox"/> ライフジャケット (水害時) | |
- ※ご自身やご家族の環境に合わせて必要なものを準備してください。



風水害時の行動マニュアル

避難先について

避難先は、避難場所だけではなくありません。安全な親戚・知人宅も避難先の選択肢となります。また、自宅が浸水しなければ、自宅が避難先になります。



正確な情報の入手方法

実際に避難場所が設置される際には、ホームページやエリアメールなどで開設状況を情報提供します。また、テレビでもデータ放送を利用して避難場所の開設状況が把握できます。河川の情報も同様にお伝えします。



防災行政無線の避難放送について

風が強いと防災行政無線の内容が聞き取れませんので、警戒レベル4避難指示(全員避難)になった地域では、サイレンのみ鳴らします。



避難行動は早めに

避難の原則は、徒歩ですが、やむをえず車で避難する場合は、明るいうち、風雨が強くないうちに避難することが、「安全な避難」につながります。風雨が強くなってからでは、道路が冠水する可能性があり、事故を起こす確率が高くなります。



ペットの同行避難について

飼い主は、ペットの同行避難が基本となります。町のペット対応施設を開設した場合は、管理の観点から「ケージに入っていること」を避難所に入る条件とします。



体の不自由な方は 早めの避難を

町の避難先の施設では、エレベーターなどがある施設も限られているため、高齢の方や障がいのある方など、避難に時間がかかる方は、早めに避難をしてください。



事前にマイ・タイムラインを作きましょう

マイ・タイムライン(行動計画表)を作って目に留まる場所(トイレのドアなど)に置いておくことで、日常的に避難計画を確認できます。



避難の際に必要なものは各自で準備

開設される避難場所は、自主避難所であり、基本的に食料や毛布は提供していません。お持ちの方は、レジャーシートや座布団などもご持参ください。



避難のタイミングを逃した場合は

自宅が2階建て以上の方は、室内でできるだけ高いところにいるようにしてください。自宅が平家の方(自宅が2階建て以上の方も必要に応じて)は、安全に歩いて行ける範囲で自宅よりできるだけ高い建物へ避難してください。

